

## “三重大生が行くインターンシップ、ここに注目”

### 第4回 井村屋グループ株式会社

2019年4月23日午後4時半、津市の井村屋グループ本社を訪問しました。総務・人事部課長代理の松田瞳さんに應對していただき、今年度のインターンシップのことなど、いろいろ聞いてきました。リポーターは、生物資源学部3年藤田美来、人文学部3年佐久間朱音、人文学部3年山添日和です。



生物資源学部学生：藤田さん

藤田：まず、井村屋グループの事業内容等を簡単にご説明して下さい。

松田：弊社は、食品メーカーで三重県津市に本社と工場があり、岐阜や豊橋にも工場があります。皆さんご存知のあずきバーや肉まんをはじめ、豆腐、調味料、スイーツなど多様な商品を製造販売しております。スイーツ事業ではフランス菓子の店舗も経営しています。

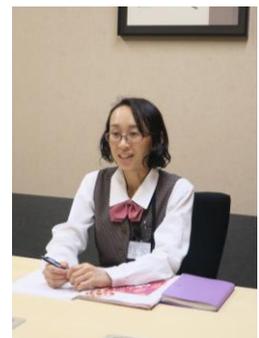
私たちは、「食品は生活必需品でもあり、楽しい瞬間を作ることもできるため、美味しいものを多くの人に提供する役割がある！」

と考えています。「おいしく食べてもらう」「おいしいの笑顔を作り続ける」ことが食品メーカーの役割といえます。

国内だけでなく海外（例えば、アジアで展示会を開催）へ、そして未来に向けて幸せを作り続けることを意識しています。

藤田：御社の働き方の特長をお教え願いますか？商品開発や販売戦略など、理系・文系の学生がどのような形で働くことができるかぜひ知りたいです。

松田：まず、ものづくりの中心である技術系の仕事として、開発部、生産技術部があります。開発部は、市場調査をしっかりと行い、お客様がどのようなものを必



人事部：松田さん

要としているか、付加価値をつけられるかを考えながら、商品設計、試作を行っています。また当社の強みが出せるか、売りに上げにつながるかを考えることも重要

です。次に、生産技術部ですが、生産性を上げたり、新商品を作るためには、どんな生産ラインを組むべきか、機械の導入が必要かを考えていく仕事です。他

にも、品質管理部、営業部、調達部、SCM部、管理系の部署があります。ものづくりは一人ではできないから、いかに協働して進めるかを意識ながら働いています。

佐久間：では今年度のインターンシップについて詳しく聞かせて下さい。

松田：9月9日から13日にかけて行います。チームで課題を持って取り組んでもらいますが、その際、品質管理上、安全な商品

を安定的に作るためにはどのようなことを意識する必要があるかを考えてもらいます。また商品企画・開発実習として、ターゲットを誰にするのか等考えながら、アイデア出しや、試作にもチャレンジしてもらいます。このように、課題を明確にし、考えられるような体験を重視しています。



人文学部学生：佐久間さん



井村屋グループ本社にて取材風景



人文学部学生：山添さん

山添：では最後に、インターンシップ生に期待することを教えてください。

松田：自分から行動して聞くこと、前のめりな姿勢を見せることを期待しています。そうすれば、社員も喜んでいろいろなことを教えてくださいますよ。ちなみに、昨年のインターンシップでは講義やワークを通じてものづくりを学んでもらう中で、学生の意欲にも差がありました。今年は、実際に実習をしながら考えてもらう部分を増やしたいと考えていますので、どんなことを学びたいかを明確にして応募してもらいたいです。

藤田：インターンシップの話とは離れますが、御社はどのような人材を求めていますか？

松田：弊社の求める人物像は、「チャレンジ精神を持つ人」「自分の言葉で伝えられる人」「論理的思考力のある人」「素直で愛嬌のある人」ですね。

藤田：ありがとうございます。最後に何か新しいことに今、チャレンジされておられますか？

松田：そうですね。今、災害時の対応や健康社会の推進が求められていますので、手軽にカロリーが取れることも特徴の非常食向けの羊羹の販売を広げたり、高齢者向けには健康寿命を延ばすことができるような高カロリー豆腐の開発などを行っています。

あと、あずきバーですが、若者へのアプローチも強めたいと思っています。年配の方には、シンプルでさっぱりした味が受け入れられています。例えば、やわもちアイスは40代前後をターゲットとして開発しましたが、意外にも若い人にも人気を博しています。弊社は和の商品が強みではありますが、洋のスイーツにも力を入れるなど、いろんなチャレンジを行うことで井村屋ブランドを知ってもらい、それとともにあずきバーなど強みの商品も知ってもらいたいと考えています。このほか、アジアなど海外の展示会にも出展し、商品を輸出していますが、その国で受け入れられる工夫をしながら商品開発も行っています。Twitter等のSNSを有効活用して、どんどん商品を知ってもらうための広報活動にも力を入れています。

藤田：本日はどうもありがとうございました。頑張ります。



井村屋グループ本社にて取材風景

#### 取材を終えて・・・

藤田：施設内の展示品はもちろん設備も整っており、従業員としても見学に来たお客様としても快適な時間が過ごせるだろうなと感じました。インターンシップで企画、試作を実際に行う上で、「学生に考えさせる、積極的に行動させる」ことも目的にされており、学びの場として成長できると思いました。また和の商品の開発がメインではありますが、洋の商品も開発することで全体のPRにつながるといった様々なチャレンジをされている、活気ある商品開発の印象を受けました。

佐久間：井村屋は三重県の企業なので、三重県出身の私にとっては身近に感じていましたが、あずきバーの企業というイメージが強くありました。しかし実際、企業訪問させてもらってお話を伺うと、海外展開していることやアイス以外にも調味料など多様な商品があることを知り、意外と大きい事業をされているという一面を見ることができて良かったです。

山添：本社と工場が併設していて、とても広いなという印象を持ちました。そして食品メーカーなので、開発、生産技術、営業、品質管理など、様々な部署が共同して1つのものづくりをしているので、協力し、相手を大切にすることが重要だと知りました。インターンシップでは、開発や試作もするかもと聞き、楽しそうだと思いました。



井村屋グループ本社玄関（取材終了後）